

アップリンク渋谷 3/20(金)~26(木)

異形 11AM劇場

ほぼ
山谷哲夫プロデュース

●—上映プログラム(詳細はウラ面へ)

- ① 夜あるいはなにものかへの註
- ② 天皇の名のもとに+沖縄のハルモニ
- ③ 在日—第一部
- ④ 小三治

面妖

前回も超満員!
好評につきアンコール上映。
主演「大道夕子」が
奈落の底から甦る

3/20(金)休日 22日 25(水)

① 夜あるいはなにものかへの註

精神病患者が演ずる狂気—「夜あるいはなにものかへの註」を上映。この強烈な印象を観客に与えるのが、この一作きりで舞台から消えた「異次元」の役者「大道夕子」である。出ただけで、舞台上に緊張感が走る。脚色、演出を担当した高野達也も天才的だが、最大の功績は「大道夕子」を発見したことである。

*たまたま、関係者宅で、原版が発見されたため、「異様」としか言いようのない作品を公開します。

●千秋健監督 1977年 70分
撮影 中島彰亮
連絡先=takano.sk@gmail.com

「夜あるいはなにものかへの註」

舞台構成演出 高野達也 / 美術 星笠恵子
照明 辻本晴彦 / 演劇公演協力 同和会千葉病院

「夜あるいはなにものかへの註」の一場面

「精神病院に入院している患者ばかりによる舞台劇を記録した『夜あるいはなにものかへの註』(監督千秋健、白黒16ミリ、一時間十分)が完成。この演劇公演はあくまでサークル活動の一環で、たまたま小劇場運動をしていた高野達也さんが看護助手として同病院に勤めたことから、本格的な演技指導を受け、全国でも初めての公演に踏み切ったものだ。大田省吾の戯曲「老花夜思」や石沢富子の「木蓮沼」などより高野達也・脚色のこの劇の主人公は老女。ただ普通に暮らしたいと願う彼女は夜の保護室をさまざまに彷徨っているうちに幻想の世界へ踏み込む。ふと気付くと、洗面器の水に自分の顔が写っている。「私が笑っている。私が笑うなんて、そんなに私をいじめないで」。こう叫んで老女は現実の保護室へ帰っていく。映画は舞台をライティングもせずそのまま実写している。暗やみの中から出演者の白く塗った顔が浮き上がり、異様な光景だ。出演者の大半が長いセリフを少しのトチリもなく話す。とりわけ主演の女性の迫真の演技は出色」—77年6月1日読売新聞夕刊(一部省略)から。

心成

② 3/21(土)24(火) 天皇の名のもとに + 沖縄のハルモニ (アップリンク連続10回上映記念)

●『天皇の名のもとに—南京大虐殺の真実』

1937年12月、余りにも早く、当時の中国の首都南京を陥落させた「皇」軍兵士は逃げ遅れた市民、とりわけ女性に対して乱暴狼藉を働いた。女であれば、幼女から老女まで猟奇的に犯し、行為後、証拠隠滅のため、殺してしまうことが多かった。生き残りは病院に運び込まれて一命をとりとめたが、それは一部でしかなかった。それを家庭用撮影機で「盗撮」していたのが、米国の牧師ジョン・マギーであった。ここに写されている「皇」軍兵士は、紛れもなく、私たちの父、叔父、そして学校の先生・お寺の住職である。

英国映画協会、ニューヨーク近代美術館フィルムアーカイブにも所蔵されていない、このフィルムをよくぞ探し出した! 「皇」軍幹部は英米各紙が報ずる強姦の多さ、惨たらしさに辟易していた。そこで、強姦予防策として、性に飢えた「皇」軍兵士に代わって「下賜」されたのが、植民地朝鮮の「慰安婦」である。南京事件は「慰安婦制度」を考える原点である。

●クリスティン・チョイ+ナンシー・トン監督 1995年 50分 / 連絡先=mgg01231@nifty.ne.jp ビデオプレス

●『沖縄のハルモニ』

沖縄が本土復帰し、本島南部のサトウキビ畑に囲まれた三畳の「掘っ建て小屋」に隠れ棲んでいた元「慰安婦」が発見された。栄養状態が悪く、たまに気分が良い時、路上で訳の解らない言葉(朝鮮語?)で吠えていた。噂を聞きつけ、ソウルや東京から女性作家、教授たちが会おうと試みるが、ハルモニ(おばあさん)は鎌を振り上げ、面会拒否。ハルモニはいくら同胞とはいえ、偉そうな女性は大嫌いだ。代わりに、小屋の中に招かれたのは、30歳になったばかりの歴史に疑いを持たない「優等生」監督だった…。それが「日本に勝ってほしかった」を未だに公言する「元朝鮮人慰安婦」の前で、青年監督が取り乱した。

上映後、各回ともに山谷監督の挨拶あり。

●山谷哲夫監督 1979年 86分 / 連絡先=yamatani@s5.dion.ne.jp 山谷



沖縄のハルモニ

③ 3/23(月) 在日—戦後50年史歴史編 特別上映

21世紀を迎え、在日の人たちは旧来の貧しい生活から、豊かになり、高等教育も受ける人たちが飛躍的に多くなり、日本社会と新しい関係を模索し始めてきた。この流れを、ボくら日本人、一人一人がどう受け止めるか? 問われているのは、ボくらのような気がする…。「在日韓国・朝鮮人」と、帰化して日本人となった人たちが、なぜこれだけ日本にいるのか? この問題をとことん追い詰めた力作。1日1回限りの上映。めったに見えない「在日理解」の決定版。

●呉徳洙監督 1997年 135分
連絡先=kimoonfilm@gmail.com



④ 3/26(木) 小三治 *祝2020年「朝日賞」授賞記念緊急上映

「思索する作家」として伝説的な存在となっている小三治。高齢のため、高座に上がる回数は少なくなっているが、11年も前に撮ったこの映画を見てもらえば、全盛期の小三治の張りがじわーっと伝わってくる。「小三治を見ずして、古典落語「敵沢」を聞かずに、死ぬなかれ!」この意味が「小三治」緊急上映会で得心してもらえるだろう。

上映後、挨拶=制作・安西志麻

●康宇政監督 2009年 104分
連絡先=anzai@officeshima.co.jp



スケジュール 3月20日(金)祝~26日(木) 連日 10:45分より

3月20日(金)	① 『夜あるいはなにものかへの註』
3月21日(土)	② 『天皇の名のもとに』+『沖縄のハルモニ』
3月22日(日)	① 『夜あるいはなにものかへの註』
3月23日(月)	③ 『在日—第一部』
3月24日(火)	② 『天皇の名のもとに』+『沖縄のハルモニ』
3月25日(水)	① 『夜あるいはなにものかへの註』
3月26日(木)	④ 『小三治』

定員 58名 各回入れ替え制 全席指定
満員の際は入場できません。予めご了承ください。
2月29日(土)朝10時より、オンライン(劇場HP)・劇場窓口にて販売開始。
一般1,800円 シニア(60歳以上)1,200円 コース(19歳~22歳)1,100円
アンダー18(16歳~18歳)1,000円
ジュニア(15歳以下)800円
UPLINK 会員 1,000円 (土日祝 1,300円)
UPLINK コース会員 (22歳以下) いつでも1,000円
【ご注意ください】本特集上映は水曜サービスデー適用外となります



JR渋谷駅から徒歩12分。文化村通りを抜け東急本店通りを経由し、セブンイレブンを越えた先です。